

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 I) General English I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
曜日/時限							

【担当教員 実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	イントロダクションとプレテスト。初対面のあいさつ～お別れまでの会話ができるようになる
2回目	自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えができるようになる
3回目	ちょっとした世間話の会話ができるようになる
4回目	好き・嫌い等の好みについての会話ができるようになる
5回目	意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答ができるようになる。
6回目	家族について話したり尋ねることができるようになる
7回目	性格について話すことができるようになる
8回目	人を褒める&褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べるができるようになる
9回目	日々の習慣について話したり尋ねることができるようになる
10回目	追加質問について学び、実践できるようになる
11回目	順序について話したり尋ねることができるようになる
12回目	総復習(筆記小テスト)
13回目	総復習(ロールプレイングテスト)
14回目	前期授業内容での期末テスト
15回目	前期期末テストの解説

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】 □

使用教本: Speak Now1

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 II) General English II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

私はシェラトンホテル、マリオットホテル、そしてウォルトディズニーワールドホテルとレストランで働いた経験があります。

【授業の学習内容】

日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	過去の出来事について話す、質問することが出来るようになる
2回目	場所を尋ねる、説明することが出来るようになる
3回目	道案内をする、尋ねることが出来るようになる
4回目	料金について尋ねる、説明することが出来るようになる
5回目	頻度について質問する、答えることが出来るようになる
6回目	アイテムの特徴を説明することが出来るようになる
7回目	食べ物の量について話す、尋ねることが出来るようになる
8回目	必要性に関して話す、尋ねることが出来るようになる
9回目	食生活について話す、説明することが出来るようになる
10回目	食べ物について説明する、尋ねることが出来るようになる
11回目	過去の出来事について話す、質問する。ある出来事に対してのリアクションや返答の仕方を学び、実践することが出来るようになる
12回目	週末や未来の予定について話すことが出来るようになる
13回目	総復習(小テスト)
14回目	後期授業内容での期末テスト
15回目	後期期末テストの解説

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】 □

使用教本: Speak Now1

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (実践英会話Ⅰ) Practical English Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。
 本授業では、これらをまとめた「スピーキング力」の基礎を実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。

【到達目標】

中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。
 (英検3級合格レベル)

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション、文の成り立ちを理解する。
2回目	「be動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
14回目	学期末試験
15回目	試験返却

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ (100%)
 ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価

受講生への メッセージ

基本技術を身につけることが重要です。
 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。

【使用教科書・教材・参考書】

・どンドン話すための瞬間英作文トレーニング

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (実践英会話Ⅱ) Practical English Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
2014年～2017年まで、徳島川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。							
【授業の学習内容】							
「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。 本授業では、これらをまとめた「スピーキング力」の基礎を実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。							
【到達目標】							
中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。 (英検3級合格レベル)							

授業計画・内容	
1回目	「現在完了形」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
2回目	「比較級」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「関係代名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「関係代名詞」の応用的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「区と節」を理解して使いこなせるようになる。
6回目	「前置詞」を理解して使いこなせるようになる。
7回目	「接続詞(名詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
8回目	「接続詞(副詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
9回目	「品詞(名詞、冠詞)」を理解して使いこなせるようになる。
10回目	「品詞(形容詞、副詞)」を理解して使いこなせるようになる。
11回目	「疑問詞」を理解して使いこなせるようになる。
12回目	「疑問詞(How)」を理解して使いこなせるようになる。
13回目	定期試験
14回目	定期試験返却
15回目	1年間の振り返り：1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ(100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	基本技術を身につけることが重要です。 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
・どんでん話するための瞬間英作文トレーニング	

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Career Program Ⅰ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

ヒューマンズスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。

【到達目標】

人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得

授業計画・内容

1回目	時間管理と挨拶・掃除&プロの職業人を 目指すにあたって
2回目	自己紹介:名前・出身地・趣味【はまっていること】
3回目	サポートアンケートと、「夢を叶えるには」について、理解を深める
4回目	コミュニケーションの基本を学び、説明ができる
5回目	接客基礎の重要な点を説明ができ、実践できる
6回目	敬語の重要性を学び、敬語の種類を理解する
7回目	「あ行トーク」で、相手を理解しようとする意欲を養い、最初から簡単に諦めないことの大切さを理解する。
8回目	「サイレントトーク」で、頭で理解するのではなく、感覚的に分かろうとする気持ちを養う。
9回目	「伝達トレーニング」で、話し言葉だけでメッセージを正確に共有するための条件を理解して、実践できる。
10回目	「ジェスチャーコミュニケーション」で、メッセージの送り手と受け手に必要な気持ちを理解して、実践できる。
11回目	「相槌・繰り返し・傾聴の技法」で、どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのかを学習します。
12回目	「要約の技法」で、自身が話を理解できているかの確認と、要約して返すことによって、問題を整理してあげることができることを学び、実践できる
13回目	「共感の技法」で、相手の気持ちを、その種類と程度まで正確に把握し、それを自然な言葉で表現して相手に返すことができるようになる
14回目	「協力ゲーム」で、チームで仕事するときの協力の重要性を知り、自分が完成してもチームのメンバー全員が完成しないと課題が達成できないことを体験して、共通の目標にむかっていかに行動するかを学び、理解できる
15回目	前期の振り返りと後期に向けて

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。
受講生への メッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅡ) Career Program Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
<p>高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>ヒューマンズスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。</p>							
【到達目標】							
<p>人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得</p>							

授業計画・内容	
1回目	キャリアサポートアンケート実施
2回目	自由連想ゲーム: 自己の公開とコミュニケーションの円滑な進め方を考えることができる
3回目	性格フィードバック: 「自分から見た自分」を理解し、「周りから見た自分」を知ることが出来る
4回目	守護霊プレイ: 自己開示することができ、相互理解を深めることができる
5回目	ブレインストーミングとポジティブフィードバック: ブレインストーミングで、性格フィードバックで学んだ、NP(養育的な親心)とFC(自由な子供心)を体感でき、ポジティブフィードバックで肯定的側面を見る必要性を感じ、実践することができる
6回目	内観レポート: 身近な人への感謝の気持ちを育てることができる
7回目	ブラインドウォーク: 指示の出し方を改善して、問題解決できる方法を学ぶ
8回目	ティーチングとコーチング: フォロワー関心・願望を把握して、効果的に助言する方法を体験学習し、ティーチングとコーチングの効果的な方法を学ぶ
9回目	栄養学教室: どのように話し合えば、正しい人の意見を活かすことができるのかを体験学習する
10回目	ブラインドワーク: 危機対処時のリーダーとフォロワーの関係を学ぶ
11回目	価値交流学習: 類似性の要因を数量化して把握でき、相互理解と受容を体験学習する
12回目	アサーション: 自分と相手を大切に作る表現技法を学ぶ
13回目	提案力を鍛える: 提案力を養うために必要な技法を学ぶ
14回目	評価される人になるには: 他社の目線に立つことで、自身を客観的に自己判断できる方法を学ぶ
15回目	1年間の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティング I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Business Computing I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。							

授業計画・内容	
1回目	インターネットガイダンス(ITリテラシーの概要・理解度テスト・COMメールの使用方法)
2回目	Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
3回目	Word② 入力練習・文書作成・編集②(効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
4回目	Word③ 入力練習・表の作成①(表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
5回目	Word④ 入力練習・印刷・図形(地図)(ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れる)
6回目	Word⑤ 入力練習・便利な機能(検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
7回目	Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成(ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
8回目	Word⑦ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
9回目	Word⑧ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
10回目	Word⑨ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
11回目	Word⑩ 入力練習・演習問題(演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
12回目	PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。画面構成)
13回目	PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ)
14回目	試験週 実技試験(入力テスト/Wordの文書作成)
15回目	振り返り・PowerPoint③ 表やグラフの利用(プレゼンテーション可視化の必要性について知り、見栄えの良いスライドを作れるようになる)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
受講生へのメッセージ	現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
30時間でマスターWord&Excel2010	

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅡ) Business Computing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。

【授業の学習内容】

情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。

【到達目標】

職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	PowerPoint④ 課題発表と準備(課題作成にあたり、デザインシートの作成やデータ収集が出来るようになる)
2回目	PowerPoint⑤ 課題作成と発表準備(効率よく課題作成や発表準備に取り組むことが出来るようになる)
3回目	PowerPoint⑥ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
4回目	PowerPoint⑦ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
5回目	PowerPoint⑧ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
6回目	Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集 (Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
7回目	Excel② 数式と関数Ⅰ (Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
8回目	Excel③ 表の編集・条件付き書式 (見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
9回目	Excel④ グラフ作成・練習問題実施 (用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
10回目	Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数Ⅱ (印刷方法、シート間の入力方法、関数Ⅱを実施し、業務での応用が出来るようになる)
11回目	Excel⑥ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目	Excel⑦ データベース機能 (データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目	試験週 実技試験(表作成・関数・グラフ・データベース機能を使用したもの)
14回目	振り返り 試験を振り返る事により、理解出来ていなかった点などを、クリアにする事により、スキルを高めよりExcelを利用出来るようになる。
15回目	Excel⑧ 総合演習 (Excelの機能を利用して、演習問題に取り組む事により、ビジネス場面での応用が出来るようになる)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
受講生へのメッセージ	現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もともと得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
	30時間でマスターWord&Excel2010 30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2010

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコール I) Manor protocol I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定1種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション:授業の目的、進め方等を理解できる。マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できる マナーとは何か:慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味①:日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる
3回目	マナーの歴史と意味②:アジアのマナーについて説明できるようになる 確認テスト①:序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 国際人としてのプロトコール①:プロトコールの原則、具体的な席次例が説明できるようになる
4回目	国際人としてのプロトコール②:社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる
5回目	国際人としてのプロトコール③:が国への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる 国際人としてのプロトコール④:が国への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる
6回目	確認テスト②:二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①:第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる
7回目	社会人に必要なマナー②:敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聞き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる 言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会人生活で適切な言葉が活用できるようになる
8回目	社会人に必要なマナー③:和装・洋装のマナーについて説明できるようになる
9回目	社会人に必要なマナー④:喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる 祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく表書きできるようになる
10回目	社会人に必要なマナー⑤:手紙のマナーについて説明できるようになる 手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる
11回目	確認テスト③:三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ビジネスシーンのマナー①:ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる 名刺交換ワークで名刺交換を練習することにより、正しく名刺交換できるようになる
12回目	ビジネスシーンのマナー②:電話応対のマナー、トラブル対応、乗客対応のマナーについて説明できるようになる 電話応対・乗客対応ワークで対応練習をすることにより、好印象な接客応対ができるようになる
13回目	ビジネスシーンのマナー③:ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
14回目	★前期試験:1~12回目の授業を振り返り、試験を行う。自身の強み・弱みを認識する
15回目	前期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 確認テスト④:四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 総合の振り返りおよび質疑応答をすることで、さらに自信を持ってマナーを実践できるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	前後期終了後にマナープロトコール3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。1年間頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

マナー&プロトコールの基礎知識

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコルⅡ) Manor protocol Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコル協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコル、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコルを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。

【到達目標】

- ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコル」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。
- ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコル検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション：授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコル検定2級、3級試験の内容が理解できる 理解度確認テスト：マナー・プロトコル検定練習問題を活用したテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる マナーとは何か：慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコルを学ぶ意義が説明できるようになる
2回目	マナーの歴史と意味、日本の礼儀作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーについて説明できるようになる 国際人としてのプロトコル①：プロトコルの原則、具体的な席次例、社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナーが説明できるようになる
3回目	国際人としてのプロトコル②：挨拶・握手と紹介のマナー、外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる
4回目	小テスト：授業内容を出题するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①：第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞いに、敬語の種類と変換、敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるとともに好印象のマナーが実践ができるようになる
5回目	社会人に必要なマナー②：和装・洋装のマナー、喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方、手紙のマナーについて説明できるようになる
6回目	ビジネスシーンのマナー：ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方、電話応対のマナー、トラブル対応、来客対応のマナー、ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる
7回目	小テスト：授業内容を出题するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 食事のマナー①：テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい着使い、食事中のタブー、和室の作法について説明できるようになる
8回目	食事のマナー②：西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方、中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる
9回目	お酒のマナー：お酒の種類、ワインの基本知識、その他のお酒の楽しみ方について説明できるようになる
10回目	小テスト：授業内容を出题するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 「冠」のしきたり：冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる
11回目	「着」のしきたり：結婚の髪型、結婚のマナー、葬儀のヘアメイク、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、お墓参りのマナーについて理解できるようになる
12回目	「葬」のしきたり：4月の行事、5月の行事、6月の行事、7月の行事、8月の行事、9月の行事、10月の行事、11月の行事、12月の行事について説明できるようになる
13回目	後期試験：1～11回目の授業を振り返り、試験を行う。自身の強み・弱みを認識する
14回目	後期試験の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる 模擬試験および質疑応答により、検定2級、3級に向けて自信が持てるようになる
15回目	マナー・プロトコル検定2級、3級 試験実施

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は「筆記試験点数」とする。

受講生へのメッセージ 3級取得者は2級取得を、3級未取得者は3級試験を取得することにより就職活動時や就職後に役立てていただけます。マナー習得と資格取得を目指し、半年間頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

マナー&プロトコルの基礎知識

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (着付 I) Kitsuke I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袴の着物までの自装ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 ミニ講義「サービス業での着付けの重要性」 座礼、着物のたたみ方、準備を学ぶ。
2回目	【ペア練習①】デモンストレーション 浴衣の他装を学ぶ。
3回目	【ペア練習②】 浴衣の他装を学ぶ。
4回目	【ペア練習③】 浴衣の半幅帯の他装を学ぶ。
5回目	【ペア練習④】 ミニ講義「着物の歴史」 浴衣の他装ができるようになる。
6回目	【個人練習①】 浴衣の自装を学ぶ。
7回目	【個人練習②】 半幅帯の自装を学ぶ。
8回目	【個人練習③】 半幅帯の変わり結びができるようになる。
9回目	【個人練習④】 浴衣の自装ができるようになる。
10回目	【前期試験】 浴衣の自装テスト20分 筆記テスト15分
11回目	浴衣でカフェにお出かけ 着物の所作を学ぶ。(予定)
12回目	【袴の着物自装①】 ミニ講義「冠婚葬祭の着物」 長襦袢のたたみ方、着方を学ぶ。
13回目	【袴の着物自装②】 デモンストレーション 着物の着方を学ぶ。
14回目	【袴の着物自装③】 ミニ講義「着物の模様・染」 着物の着方を学ぶ。
15回目	【袴の着物自装④】 着物までの自装ができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・自装テスト+筆記テスト

受講生への メッセージ

実技中心の授業となります。
復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとても大切になります。
一緒に頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

足袋、肌襦袢、長襦袢、補正タオル
髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (着付Ⅱ) Kitsuke Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袴の着物までの自装ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	名古屋帯のたたみ方 太鼓結びの自装を学ぶ。
2回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
3回目	★ミニ講義「織の着物・織の帯・染の帯」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
4回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
5回目	袴のたたみ方 袴の他装を学ぶ。
6回目	袴の他装ができるようになる。
7回目	★ミニ講義「季節の舞妓かんざし」 帯揚げ・帯締めの変わり結びができるようになる。
8回目	名古屋帯で変わり結びの他装ができるようになる。
9回目	★ミニ講義「家紋」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
10回目	着物の自装テスト(15分)
11回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
12回目	名古屋帯で太鼓結びの自装ができるようになる。
13回目	名古屋帯の自装テスト (帯・帯揚げ・帯締め 25分)
14回目	振袖の他装を学ぶ。
15回目	振袖の他装ができるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・自装 実技試験 ・筆記試験
受講生への メッセージ	実技中心の授業となります。 復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとても大切になります。 一緒に頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

足袋、肌襦袢、長襦袢
髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティングセールス (マーケティング)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	Marketing					
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。
 <エマージェンス・ジャパン合同会社 代表> <https://emergence-japan.com/>

【授業の学習内容】

企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に付け、企画立案の基礎能力をつける。

【到達目標】

サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 企画立案から企画書作成、プレゼンテーションまでの流れと概要を理解する
2回目	【マーケティング①】 課題を構成する要素を分析し、定義を明確にできるようになる
3回目	【マーケティング②】 分解要素をリサーチし、課題を再定義できるようになる
4回目	【マーケティング】 ホテル、エアライン、インバウンド観光業界の動向やトレンドを調査し、ポジショニングできるようになる
5回目	【コンセプト】 ミッションとコアアイデアを立案できるようになる
6回目	【ブレインストーミング①】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
7回目	【ブレインストーミング②】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
8回目	【ブレインストーミング③】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる
9回目	【ブレインストーミング④】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる <演習実施>
10回目	【企画立案】 アイデアの実現性を検討し、プロジェクトへ昇華できるようになる
11回目	【プレゼン資料の作成】 プレゼン資料の効果的な構成を理解し、土台を作れるようになる
12回目	【プレゼン資料の作成】 効果的なプレゼン資料が作成できるようになる
13回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習①とフィードバック <演習実施>
14回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習②
15回目	【振り返り】 半年間の振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。
 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・演習課題の完成度 100%

**受講生への
メッセージ**

これから創造力が重要性を増す時代です。
 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。
 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキング I) Walking & Posture I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル & リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にしていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことにより脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	
5回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・胸の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけかわて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
6回目	
7回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
8回目	
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。 スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	
11回目	
12回目	夏季休暇明け、試験日対策として総復習を行い、苦手な点を再度練習しできるようになる。
13回目	
14回目	前期試験日
15回目	フィードバックを行い、試験でできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・入退出時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα
・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)

受講生へのメッセージ

ウォーキングを習うと聞くと、モデルさんや舞台上に立つ人だったり何か特別な人が習うものと感じていると思いますが、人間はみな二足歩行です。特別な人だけでなく「正しく立つ・歩く」知識や技術は皆さんも知る必要があります。私自身がそうだったように無意識にしているその姿勢や歩き方が実はマイナスな印象にうつついたり、身体の不調を引き起こす原因になっている可能性もあります。人前に立った際に、またどんなシーンにおいても好感の持てる人になるよう身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は適時、配布
持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ) Walking & Posture Ⅱ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことにより脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
後期は前期に引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形を代表するためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	前期に続き姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようにする。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものもの丁寧な扱い方(カバンを持ち方・傘の持ち方など)を仕事一つで表現できるようになる。
2回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようにする。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようにする。(手鏡ご持参ください。)
3回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしやがみ方等できるようにする。
4回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。履れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの教式を学ぶことができるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようにする。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようにする。)
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
13回目	試験日
14回目	フィードバック
15回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・姿勢・ヒールウォーキング 60点 ・ジャケットの脱ぎ方たため方 40点
受講生へのメッセージ	就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っています。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。前期同様、引き続き動的ストレッチを行いつつ「楽しく楽しく」学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は適時、配布 持ち物：スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究 I) Company Reserch I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。
現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。
CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

企業様(ホテル)よりホテルプロモーションのテーマを頂き、クライアント(ホテル)の現状、プロモーションのターゲット、ゴール等をヒアリングする。授業では、グループワークにより実際にマーケティング、企画立案、提案構築、制作、発表することにより、企画提案書の立案方法、制作方法、プレゼンテーションの技法を学ぶ。

【到達目標】

実際に商品化が可能なホテルプロモーションをグループワークで制作することにより、マーケティングによる顧客ニーズの理解、効果的なホテルプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

授業計画・内容

1回目	科目概要・目標解説: 企画書制作の基本が理解できるようになる。
2回目	テーマ発表: 1. 企業訪問、ショールーム、課題説明、情報収集、ヒアリング、質疑応答等。
3回目	科目概要・目標解説: 企画書制作の基本が理解できるようになる。
4回目	研究概要の構築: 1. 企画書の目的設定 2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出
5回目	研究内容の構築: 1. プランの絞込み 2. 提案内容の実行できる方法論の策定 3. 予算、スケジュールの策定 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認
6回目	プレゼンテーション内容決定: 1. 問題点の整理 2. 提案内容(プラン)の決定 3. 提案のメリット構築 4. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法の決定。
7回目	プレゼンテーション資料作成: 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
8回目	プレゼンテーション資料作成: 1. 問題点の整理 2. 提案内容 3. 提案のメリット 4. 予算 5. スケジュール 6. 問題点とその解決方法
9回目	プレゼンテーション資料完成: 1. プレゼンテーション内容の確認、精査、修正等 2. 最終準備
10回目	第1回プレゼンテーション: 1. プレゼンテーション 2. フィードバック
11回目	プレゼンテーション内容レビュー: 1. 企画書の目的設定精査 2. ゲストターゲットの設定精査 3. プレゼンテーション・プランの最終決定
12回目	プレゼンテーション内容レビュー: 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
13回目	授業内プレゼンテーション: 1. 授業内でのプレゼンテーション 2. レビュー 3. 内容の最終確認、精査、修正 最終準備
14回目	プレゼンテーション内容レビュー: 1. 提案内容の実行できる方法論の確定、予算、スケジュールの設定 2. 提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決。
15回目	最終プレゼンテーション: 1. 各班プレゼンテーション 2. 企業様審査 3. レビュー

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50%+授業態度(授業を聴く態度、制作する態度、チームワーク)10%+企画内容評価40%を評価基準とする。

受講生へのメッセージ
ホテル現場の方からのお話を参考に、実際に商品化できる企画立案を目標としてグループワークにより構築・制作します。企画提案を実践することにより、他者の意見や業界の様々な考え方の基礎を学ぶ事が出来ます。

【使用教科書・教材・参考書】

授業のテーマについて、講師が参考資料を適宜準備する。
使用ソフト: Power Point 他

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (留学英語Ⅰ) English for Study abroad Ⅰ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
					2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>ニューヨークでの留学を経験後、留学カウンセリング事業を立ち上げて代表を務める。留学に関するアドバイスを行う傍ら、大学にてTOEICの指導を4年間行っている。</p> <p>また、TOEICの対策ではなく英文法の基礎を応用させる教育スタイルを採用しており、最近では社会人向けの英文法講座のメイン講師も務める。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>英語に対して苦手意識を持っていたり、英語力が伸び悩むのは中高の英語学習に対する苦手意識が原因であることがほとんどです。この授業でもう一度中高の英文法を、最優先事項にのみ絞って復習します。また、改めて学んだ英文法を使って文章読解を行うことで、自分の身に付けた能力が活かされているという体験をしていきます。</p> <p>さらに、他の英語の先生方とも連携をし英文法のみならず英会話の場面においても英文法が大事であるということを学んでいきます。</p>							
【到達目標】							
<p>英文法を基礎からしっかりとマスターし、自分の英文法の知識を整理する。その上で、英文を読んでいくことで、どんな文章や会話でも自力で理解できる力を身に付けます。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション・文の成り立ち・英語の構造について / 日本語との違いを構造から理解することでこれから学習していく基礎が作れるようになる。
2回目	Be動詞について / Be動詞の役割を理解することでこれらの英語学習の基盤ができ、学習がしやすくなる。
3回目	一般動詞について / 英語の根幹となる一般動詞の役割を理解できるようになる。
4回目	過去形(Be動詞)について / Be動詞の過去形の文章が読めたり、自分で文章を作ることができるようになる。
5回目	過去形(一般動詞)について / 一般動詞の過去形が使えることで自分自身で文章を作ることができるようになる。
6回目	進行形(現在形・過去形)について / これまでに学んだ知識を踏まえて進行形を学ぶことで、進行形の感覚を掴む。
7回目	未来形について / 未来形と助動詞についての理解を深める。
8回目	助動詞について / 助動詞のルールを知るだけでなく、コアの意味を理解することで正しく助動詞が使えるようになる。
9回目	受動態について / これまで学んできた能動態ではない文章の感覚を掴むことで、受動態の文章を自ら作り、使えるようになる。
10回目	現在完了形(概念・継続) / 日本語にはない現在完了の概念を理解し、現在完了の文章が読み書きできるようになる。
11回目	現在完了形(経験・疑問/否定)について / 前回の知識を応用して疑問文・否定文を学ぶことで、より現在完了の文章を日常会話で取り入れられるようになる。
12回目	不定詞・動名詞について / 英語の幅を広げる上で非常に大事な不定詞・動名詞を理解することで、より具体的な文章を書けるようになる。
13回目	第4文型・第5文型 / 高校で学習し混乱しがちな2つの文型を復習することで、英語の苦手意識を克服できるようになる。
14回目	学期末試験
15回目	学期末試験返却・前期振り返り / 前期試験の振り返りを行うことで後期への学習に繋げる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 筆記試験100点の40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	皆さんの中には英語に対して苦手意識を持っている方もいらっしゃるかと思います。ですが、中高の英文法をきっちりマスターし理解を深めることで確実に英語力は伸びていき苦手意識も自然と拭えるようになります。 また、留学を控えている方は海外でのコミュニケーションに大きな不安を抱いておられるかと思いますが、基礎力があれば会話は成立します。中高の時には分からなかった文法も一緒に楽しく学べば必ず理解できることと思いますので、一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
TOEICテスト書き込みノート 文法編 (Gakken)	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (留学英語Ⅱ)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	English for Study abroadⅡ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ニューヨークでの留学を経験後、留学カウンセリング事業を立ち上げて代表を務める。留学に関するアドバイスを行う傍ら、大学にてTOEICの指導を4年間行っている。
また、TOEICの対策ではなく英文法の基礎を応用させる教育スタイルを採用しており、最近では社会人向けの英文法講座のメイン講師も務める。

【授業の学習内容】

前半部は前期で扱いきれなかった内容や、留学に向けて必要な文法の知識を学ぶ。
中盤から後半にかけては、「童話」をグループ毎に分かれて英訳をしていき最後に全員の前で発表を行う。

【到達目標】

来年に控える留学に向けて、文法の基礎が頭に入っているだけでなくそれらを使って表現をすることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	現在完了：現在完了の全ての用法が理解できるようになる。
2回目	比較：比較級の文法が理解出来て、読めるようになる。
3回目	関係代名詞①：関係代名詞の働きを理解できるようになる。
4回目	関係代名詞②：前回の内容を踏まえて更に発展的な関係代名詞の文章が読めるようになる。
5回目	句と節：句と節それぞれの定義を理解することで文章を区切って読めるようになる。
6回目	前置詞：前置詞の働きと使い方を理解することでより具体的な描写ができるようになる。
7回目	接続詞①：接続詞の名詞節の働きが理解できるようになる。
8回目	接続詞②：従位接続詞の副詞節の役割が理解出来て、より長い文章を読めるようになる。
9回目	品詞①：英語における名詞と冠詞の役割を理解できるようになる。
10回目	品詞②：形容詞・副詞の働きを理解し、文章をかたまりで捉えられるようになる。
11回目	疑問詞①：5W1Hを理解することで、相手により具体的な質問ができるようになる。
12回目	疑問詞②：Howを使った文章を理解することで留学中でも困らないような質問ができるようになる。
13回目	定期試験
14回目	定期試験返却
15回目	1年間の振り返り：1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
------	--

受講生へのメッセージ	留学まで残り半年ですので、毎回出席して準備万端で出発できるようにしましょう。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

TOEICテスト 書き込みノート文法編	
---------------------	--

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (イングリッシュコミュニケーションⅠ) English Communication I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
【授業の学習内容】							
科目「留学英語」と「実践英会話」で学んだ英語を実際にネイティブスピーカーの講師を話すことで、自信の英会話能力の向上を目指す。							
【到達目標】							
ネイティブスピーカーとの会話に抵抗がなくなり、留学生活に対しての不安の払しょく、留学先でのレベル4クラスを目指す。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、文の成り立ちを理解する。
2回目	「be動詞」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
14回目	学期末試験
15回目	試験返却
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ(100%)
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (イングリッシュコミュニケーションⅡ)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	English Communication II				30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業形態	講義	時間数 (単位)	2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
【授業の学習内容】							
<p>科目「留学英語」と「実践英会話」で学んだ英語を実際にネイティブスピーカーの講師を話すことで、自信の英会話能力の向上を目指す。</p>							
【到達目標】							
<p>ネイティブスピーカーとの会話に抵抗がなくなり、留学生活に対しての不安の払しょく、留学先でのレベル4クラスを目指す。</p>							

授業計画・内容	
1回目	「現在完了形」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
2回目	「比較級」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
3回目	「関係代名詞」の基本的な文章を英語で話せるようになる。
4回目	「関係代名詞」の応用的な文章を英語で話せるようになる。
5回目	「区と節」を理解して英語で話せるようになる。
6回目	「前置詞」を理解して英語で話せるようになる。
7回目	「接続詞(名詞節)」を理解して英語で話せるようになる。
8回目	「接続詞(副詞節)」を理解して英語で話せるようになる。
9回目	「品詞(名詞、冠詞)」を理解して英語で話せるようになる。
10回目	「品詞(形容詞、副詞)」を理解して英語で話せるようになる。
11回目	「疑問詞」を理解して英語で話せるようになる。
12回目	「疑問詞(How)」を理解して英語で話せるようになる。
13回目	定期試験
14回目	定期試験返却
15回目	1年間の振り返り：1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ(100%)
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメントベーシック I) Core Management Basic I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

<コアマネジメント>心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。
<気質学>生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション)授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる
2回目	(気質学基礎知識②)4つのエネルギーの特性を学び、それぞれの行動形態を理解することができる
3回目	(気質学基礎知識④)4つのエネルギーの特徴を理解し、見分け方することができる
4回目	(特別講義①)～オリエンテーション～何を学ぶのか、どのように効果的に学ぶのか～ 企業や現在の社会ニーズとしてオンライン(テレワーク)を導入されている企業も多く、オンラインとリアルとの融合をテーマにオンラインにて効果的に学習をすすめる為の方法について理解し、オンラインに対応できるようになる。皆さまとのラポール(心理的安全性)を創り出し、強いチームになる素地を築き上げます
5回目	気質学基礎知識①～⑥までの授業内容の理解度の確認と復習
6回目	(気質学基礎知識⑧)4つのエネルギーのクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる(2)
7回目	(特別講義②)～イントロダクションなぜ学ぶのか、何を学ぶのか～ 企業人事に求められる人材になる為に必要なことを理解する質の高いコミュニケーション、場割りメソッドを理解することができるようになる
8回目	(基礎知識の応用③)実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(3)
9回目	気質学基礎知識 理解度の確認と復習(1)
10回目	(基礎知識①)心理学的な脳の仕組みを知って、その働きを理解することができる(1)
11回目	(特別講義③)～主体性を作り出す～ 圧倒的な成果を創り出す為の「場割り」(意識・質の高いコミュニケーションを伝えるようになる)を再現性高く生み出す知識・技術力が身につく、成果を出しやすい自分自身の習慣を理解することができるようになる
12回目	(基礎知識④)信頼関係を築くスキルを学び、理解することができる
13回目	(特別講義④)～ゴールイメージを思い描く～ チームが一丸となる 理念浸透の構造理解と圧倒的Vision構築ができるようになる
14回目	(基礎知識⑦)五感を通して物事を記憶し、発信する仕組みを理解することができる(2)
15回目	授業内容の理解度確認と復習(1)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・テスト演習50%
・制作課題の提出率および完成度50%

受講生へのメッセージ

コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・コアマネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構
禁断の気質学

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (フォートロジー気質学 I) Fortology I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
<p>プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。</p>						

授業計画・内容	
1回目	(基礎知識①)自分のエネルギー配分を知って、自分の特性を理解することができる
2回目	(基礎知識③)2つに分類される行動形態を学び、共通した特性を理解することができる
3回目	(基礎知識⑤)接客における4つのエネルギーの相性を理解し、実生活で活用できるようになる(1)
4回目	(基礎知識⑥)接客における4つのエネルギーの相性を理解し、実生活で活用できるようになる(2)
5回目	(基礎知識⑦)4つのエネルギーのクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる(1)
6回目	(基礎知識の応用①)実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(1)
7回目	(基礎知識の応用②)実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(2)
8回目	(基礎知識の応用④)4つのエネルギーの特徴を理解し、コミュニケーションを円滑することができる
9回目	気質学基礎知識 理解度の確認と復習(2)
10回目	(基礎知識②)心理学的な脳の仕組みを知って、その働きを理解することができる(2)
11回目	(基礎知識③)コミュニケーションの流れと、自分と相手を観察する方法を理解することができる
12回目	(基礎知識⑤)非言語によるコミュニケーションを学び、活用することができる
13回目	(基礎知識⑥)五感を通して物事を記憶し、発信する仕組みを理解することができる(1)
14回目	(基礎知識⑧)目の動きからわかる思考パターンを理解することができる
15回目	授業内容の理解度確認と復習(2)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% ・制作課題の提出率および完成度50%
受講生へのメッセージ	コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>・コアマネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構 禁断の気質学</p>	

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーション I) Food & Beverage・Restaurant Operation I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
					2	曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在 關北山貿易のホテル部門に在籍中。

神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。

料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。

【授業の学習内容】

レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかでどう位置付けがなされているのかなども学びます。

レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。

【到達目標】

FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。

授業計画・内容

1回目	開講に際して講師挨拶と自己紹介、学生全員の自己紹介自己PRなどを行う ホテルの業種や業界、組織図について知ることができる
2回目	ソーシャルスタイル(4つの個性、特徴)を学び自分を知る、さらに相手を知ることができる
3回目	基本の動作および接客用語を実際に使い習得することができる(接客用語と礼、歩き方、ノック、お迎え、お見送りまで)
4回目	OE(シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア、リネン)、FF&Eなどの用語や用途、取り扱いが理解できる サービススタンダードとは何かを理解できる
5回目	レポーティングとSWIHの重要性及び”ハウレンソウ”とは何かを知ることができる プレゼンテーションスキルを身につけることができる(相手にメッセージを伝える技術)
6回目	基本的なテーブルマナーを知ることができる
7回目	レストランとバンケットの基本のテーブルセッティングを習得できる
8回目	メニューとオーダーテイク、ドリンクサービスを体験しそれを理解できる (コーヒーカップ、ソーサー、ゴブレット、タンブラー、ワイングラスなどの扱い方)
9回目	オーダーテイクとフードサービスを体験しそれを理解できる (プレート、プラッター、サーバー、チューリンなどの扱い方)
10回目	予約と電話応対を実際に行い重要なポイントを習得できる
11回目	FBサービスの一連の動作確認とゲストとの会話を体験し重要なポイントを習得できる
12回目	コンプレイン、クレームとは何か、そしてどのように対応をするのかを理解できる 課題指示
13回目	課題について各自でプレゼンを行い、講評を行う
14回目	振り返りと前期試験
15回目	試験についてのフィードバック 後期の学習内容について
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末の試験において実技40%、筆記60%の比率にて評価する。 ・
受講生へのメッセージ	全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師からの一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

テキスト、OE、リネンなど

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーションⅡ) Food & Beverage・Restaurant OperationⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在 欄北山貿易のホテル部門に在籍中。
神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。

料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。

【授業の学習内容】

レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかでどう位置付けがなされているのかなども学びます。

レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。

【到達目標】

FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。

授業計画・内容

1回目	前菜 スープ 魚介 肉 野菜 チーズ デザートなどで使用される食材を学び 知識を得る
2回目	在阪ホテル館内見学実体験する
3回目	西洋料理調理法の基本的な食材の仕込みの表現、切り分け方、焼き方を分類し理解する
4回目	(振り返り)おじきの仕方から接客用語唱和 言葉使いの基本マナーを学び 再習得出来る
5回目	ワインの分類、ぶどう品種、フランス6大ワイン産地を知る 後半はテーブルクロス掛け方技術習得
6回目	料理名や食材名からメニュー構成まで学習し知識を得る
7回目	銀食器、陶磁器、ガラス容器の説明及び食器類の名称の知識を習得
8回目	フランス式、ロシア式、イギリス式、アメリカ式のサービスの違いやレストランスタッフの任務の知識を習得
9回目	「5W・1H」の基本や一般的救護方法 食の禁忌(タブー)知識を習得
10回目	HRS実技試験概要の把握 グループ練習でサービスの流れを把握出来るようになる
11回目	HRS実技試験シミュレーション 合格ラインのレベルに引き上げる
12回目	過去授業の重要箇所を復習して 再認識させる
13回目	後期・前期授業の中から出題(筆記)
14回目	試験フィードバック
15回目	(モチベーションアップ研修)ホテルレストラン就職に向けての心構えを身につける

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末の試験において実技40%、筆記60%の比率にて評価する。 ・
------	---

受講生へのメッセージ	全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師からの一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。
------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

教科書・教材・参考書	レストラン業務の基礎、OE、リネンなど
------------	---------------------

授業シラバス

科目名 (英)	ホテル概論・演習Ⅰ (ホテル基礎Ⅰ)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Hotel BasicⅠ						
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

1981年4月神戸ポートピアホテル入社。フレンチレストランをはじめ、宴会サービス、レストランマネージャー、VIPアテンドなど携わる。1992年4月トラジャル旅行ホテル専門学校入社。ホテル学科長、キャリアサポート、ブライダル学科設立など経験する。ホテル学科だけで3000名の卒業生を輩出する。2004年9月関西唯一のホテル専門の教育・人材会社、株式会社ホテルiestaff設立。関西のホテル業界を中心に教育と人材の供給に努めている。

【授業の学習内容】

ホテル業界の接客・接客、ホテルの歴史、ホテル業界の現状・将来性・課題などを幅広く学び、ホテル業界の魅力を持ってもらうこと目標とする。また、国内および海外のホテルチェーンも学び、将来の就職先の目安を決められるようになります。そして、ホテル業界の基本的なマナー・ホスピタリティーを学び、ホテル業界での心構えも習得する。

【到達目標】

国内の様々なホテルチェーンや外資系のホテルチェーンを学び、それぞれの希望の将来の就職先のホテルを決めることができるようになる。そして、ホテルの基本を学び、ホテルマンらしい振る舞いや行動、言動などができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師の自己紹介・ホテル基礎の授業の概要と進め方・重要性を理解することができるようになる。
2回目	接客の基本、第一印象やキャスト・お辞儀の重要性を学び、接客の基本を理解できるようになる。
3回目	ホテルでの接客・接客・サービスをプロのホテルエの立場から解説するため、さらに接客の重要性や魅力を理解できるようになる。
4回目	ホテル業界でのサービス・接客・おもてなしを探り、個々の目標を持つことができるようになる。
5回目	ホテル業界の将来性・魅力を学び、ホテル業界の憧れを現実的に知ることができる。
6回目	ホテルの語源・定義や観光業界でのホテルの位置づけを学び、ホテルの基本を把握することができるようになる。
7回目	ホテルの組織・役割・各部署(宿泊・料飲・宴会・営業・管理)などを知ることにより、ホテルでの具体的な仕事を学ぶ。
8回目	海外のホテルチェーンの歴史を日本の既存ホテルから学び、将来の就職先のホテルの目標を持つことができるようになる。
9回目	国内の日本資本のホテルの歴史を学び、外資系と比較し、将来の就職先のホテルとして位置づけることができるようになる。
10回目	リゾートホテル・ビジネスホテル・旅館・ゲストハウスなど関西を中心にその他の宿泊施設の紹介。シティホテルとの比較ができるようになる。
11回目	世界と日本のホテルの格付けとレストランの格付けを学び、各ホテルの比較ができるようになる。
12回目	アルバイト・インターンシップのホテル業界の心構えを学び、実際の職場で役立てることができる。
13回目	ホテル業界でのマネジメントの基礎を学び、現在のアルバイト、将来の仕事で活かせることができる。
14回目	筆記試験
15回目	テストの解説と総合復習

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

◎ 筆記試験を100点満点 100%

受講生への メッセージ

ホテル業界の基礎から現状、そしてホテルの紹介と幅広くホテル業界を学んでいきます。そして、接客や心構えなどホテル業界の裏側も学びますので、ホテル業界の魅力や将来性をきっと見つけることができると思います。最終的には、ホテルマンらしい振る舞いや行動が自信を持ってできるようになりますので、積極的に授業に望んでいただけることを期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

・「新ホテル総論」 一般財団 日本ホテル教育センター ・「ホテルビジネス 基礎編」 一般財団 日本ホテル教育センター

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーション I) Front Office Operation I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。 現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持てる実践型の授業内容とする。</p>							
【到達目標】							
<p>ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	前期授業の概要説明並びに自己紹介を通じて全員で宿泊部門の疑問点や不安解消に向けてコミュニケーションを図る。
2回目	(宿泊部門の使命と役割) 予約⇒チェックイン⇒チェックアウト⇒清掃までの一連の流れを学ぶ。
3回目	お客様から見られていることを理解・意識して、魅せるスタッフとなる表現力を養うことが出来る。
4回目	(ベル業務の理解①) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、ゲストの誘導方法やワゴンの使い方をロールプレイングを通じて学ぶ。
5回目	(ベル業務の理解②) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、現状のゲストニーズと、今後求められるサービスを考察することで、想像力と対応力を養うことが出来る。
6回目	(ベル業務の応用①) お部屋までのご案内や観光施設へのインフォメーション業務をロールプレイングを通じて学ぶ。
7回目	(ベル業務の応用②) ドア業務の内容を理解し、到着⇒お出迎え⇒フロントまでのご案内⇒お部屋までのご案内をロールプレイングを通じて学ぶ。
8回目	(クローク業務の理解) クローク業務の1日を通しての内容を理解し、クロークタグの結び方を習得する。
9回目	(クローク業務の応用) お荷物のお預かり⇒お渡しまでの業務をロールプレイングを通じて学ぶ。
10回目	(コンシェルジュ業務の理解①) コンシェルジュ業務の1日を通しての内容を理解し、観光施設やレストラン情報を収集する。
11回目	(コンシェルジュ業務の理解②) コンシェルジュ業務の1日を通しての内容を理解し、コンシェルジュに求められる提案力を養い、代替案の創造力を養うことが出来る。
12回目	(コンシェルジュ業務の応用①) 観光施設やレストラン案内業務をロールプレイングを通じて学ぶ。
13回目	(コンシェルジュ業務の応用②) ゲストの要望を組み取った観光プランの策定と提案をプレゼンテーションを通じて学ぶ。
14回目	(前期試験) 1～13回目の授業を振り返り、前期試験を実施する。宿泊部門の基本業務の再確認を行う。
15回目	(振り返り) 前期試験の解説後、ロールプレイングを行い前期の宿泊部門業務を流れて再確認して宿泊業務への自信と意欲を手に入れる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験 30点 + 筆記試験 70点の合計100点とし40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	接客(おもてなし)に、ここまでという言葉はありません。 おもてなしの引き出しを増やせるように全員で取り組み、皆さまがホテルの顔として自信を持って目指せるように共に頑張りましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	
・使用教本: 宿泊業務の基礎 *財団法人日本ホテル教育センター監修	

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーションⅡ) Front Office Operation Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。
現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持つ実践型の授業内容とする。

【到達目標】

ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。

授業計画・内容

1回目	後期授業の概要説明並びに全員で宿泊部門の疑問点や達成目標に向けてのコミュニケーションを図る。
2回目	(宿泊部門の使命と役割) (予約⇒チェックイン⇒チェックアウト⇒清掃)までの一連の流れを学び理解する。
3回目	(ベル業務の理解) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、ゲストの誘導方法やワゴンの使い方をロールプレイングを通じて理解する。
4回目	(ベル業務の実践①) お部屋までのご案内や観光施設へのインフォメーション業務が出来るようになる。
5回目	(ベル業務の実践②) ドア業務の内容を理解し、(到着⇒お出迎え⇒フロントまでのご案内⇒お部屋までのご案内)が出来るようになる。
6回目	(リザーベーション業務の理解) 宿泊予約業務を理解し、予約の受注方法やTAP宿泊システムを学び理解する。
7回目	(リザーベーション業務の実践①) 宿泊予約業務での(電話対応⇒受注⇒TAP宿泊システムへの入力)まで出来るようになる。
8回目	(フロントレセプション業務の理解) フロントレセプション業務を理解し、カウンターでのおもてなしとTAP宿泊システムを学び理解する。
9回目	(フロントレセプション業務の実践①) フロントカウンターでのおもてなしと、(ゲストご到着⇒チェックイン)まで出来るようになる。
10回目	(ハウスキーピング業務の実践) ベッドメイク業務を(未清掃状態⇒清掃完了)まで時間管理を行いながら出来るようになる。
11回目	(コンシェルジュ業務の実践①) 観光施設やレストラン案内業務をゲストの要望を組み取った観光プランが策定出来る。
12回目	(コンシェルジュ業務の実践②) 策定した観光プランを全員の前でプレゼンテーションが出来る。
13回目	(後期試験) 1～12回目の授業を振り返り、後期試験を実施する。宿泊部門全般のオペレーション業務の再確認を行う。
14回目	(振り返り) 後期試験の解説後、後期の宿泊部門を流れて再確認して宿泊業務への自信と意欲を手に入れる。
15回目	(宿泊業務統括) 宿泊部門の業務全般の流れ(お出迎え⇒チェックイン⇒滞在中のおもてなし⇒お見送り)まで出来るようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験 30点 + 筆記試験 70点の合計100点とし40%計算を行う。
------	---

受講生へのメッセージ	接客(おもてなし)に、ここまでという言葉はありません。 おもてなしの引き出しを増やせるように全員で取り組み、皆さまがホテルの顔として自信を持って目指せるように共に頑張りましょう!!!
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

・使用教本: 宿泊業務の基礎 *財団法人日本ホテル教育センター監修

授業シラバス

科目名 (英)	経営管理 I (IR基礎 I)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	IR Basic I						
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
					2	曜日/時限	
【担当教員・実務者経験】							
東洋大学国際観光学部教授,IR(Integrated Resort)*ゲーミング学会理事,日本ホスピタリティ・マネジメント学会理事,2018年7月13日参議院内閣委員会にIRの専門家として呼ばれる。							
【授業の学習内容】							
2018年夏にカジノを収益のエンジンとしたIR(Integrated Resort)を合法化するための法案が可決された。まだ日本ではIRとカジノを同じものにとらえる風潮が残っているがそれは間違いである。また、日本ではカジノを合法化する最後発の国となり、なおかつ世界で規制が最も厳しくなりそうである。本講義では日本のIRの「本質」を学習する。							
【到達目標】							
①観光産業にどのような形でIRが寄与できるかを理解できる。②日本におけるIRの制度がどのようなものであるかについて深く理解できる。							

授業計画・内容	
1回目	はじめに(ガイダンス)
2回目	日本における観光政策の流れについて理解できるようになる。
3回目	1964年東京オリンピック、2020年東京オリンピック、1970年大阪万博、2025年大阪万博について理解できるようになる。
4回目	日本における合法的なギャンブル産業について理解できるようになる。
5回目	日本におけるギャンブル依存症対策について理解できるようになる。
6回目	日本におけるIRの制度設計について理解できるようになる。
7回目	日本におけるIRの制度の詳細な点について理解できるようになる。
8回目	アメリカのカジノについて理解できるようになる。
9回目	ラスベガスのIRについて理解できるようになる。
10回目	インディアンカジノについて理解できるようになる。
11回目	マカオのIRについて理解できるようになる。
12回目	シンガポールの観光振興、依存症対策について理解できるようになる。
13回目	シンガポールのIRについて理解できるようになる。
14回目	IRにおけるノンゲーミングの重要性について理解できるようになる。
15回目	まとめ(日本版IR)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習10% ・グループワークにおける課題達成度。
受講生へのメッセージ	日本におけるIRは2020年代の後半より稼働することになりそうです。それは皆さんにとって大きなチャンスだと思います。自分でもアンテナをはって情報収集をしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具、参考文献は適宜指示します。	

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 I)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	MICE Business I	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

【授業の学習内容】

MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。

【到達目標】

MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	前期試験
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会議場) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	前期講義のレビュー

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験の点数
------	---

受講生へのメッセージ	
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

--	--

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンド I (MICEビジネス概論 II)	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	MICE Business II	授業 形態	講義 演習	総コマ数 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。G20大阪サミット関西推進協力協議会特別アドバイザーとして、G20の準備から開催まで一貫して関わった。韓国MICE産業協会諮問委員、MPI Japan Chapter 会長、観光庁MICE推進検討委員会委員を歴任し、日本のMICE業界の発展に尽力する。

【授業の学習内容】

展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。

【到達目標】

MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などをの説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解を深める。
12回目	MICEトレードショーの実務体験(インターンシップ)2020年12月2日(水) 大阪観光局が主催するMICEトレードショー「大阪MICEデスティネーション・ショーケース2020」の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する。
13回目	後期試験
14回目	IR(観光型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 2020年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する。

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期試験の点数

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Gloval Hospitality I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接遇マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくろう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	期末試験
15回目	試験・前期授業の振り返り

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
------	--

受講生への メッセージ	
----------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ) Gloval Hospitality II	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

株式会社JALスカイ大阪に勤務。伊丹空港のグランドスタッフとしてVIPのお客様を数多く対応している。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
前期では、訪日外国人に対する基本的な理解、接遇マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	前期の復習:VIP対応の基本マインドを理解し、日本語ロールプレイングを実践することができる。
2回目	前期の復習:VIP対応の基本マインドを理解し、英語ロールプレイングを実践することができる。
3回目	国際儀礼とドレスコード 席次、フォーマル、セミフォーマルについて理解し、関連する語彙を学ぶことができる。
4回目	日本の食べ物を英語で表現 一汁三菜、そば、天麩羅、しゃぶしゃぶ、寿司などについて英語で表現することができる。
5回目	プレゼンテーション①:日本の伝統的な食べ物をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。
6回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
7回目	日本の習慣を英語で表現 靴を脱ぐ習慣、畳、挨拶の仕方などについて英語で表現することができる。
8回目	プレゼンテーション②:日本の習慣をひとつ選び、英語でプレゼンすることができる。
9回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
10回目	ホームタウンを英語で表現 自分の生まれた土地、住んでいる土地について英語で表現することができる。
11回目	プレゼンテーション③:ホームタウンについて英語でプレゼンすることができる。
12回目	プレゼンテーションの振り返りを行い、お互いの発表について共有し知識・語彙を深めることができる。
13回目	期末試験の準備
14回目	期末試験
15回目	試験・前期授業の振り返り

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
------	---

受講生へのメッセージ	
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅰ (国際観光Ⅰ) International Tourism I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究—留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	理解度確認テスト実施
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験出来る様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験出来るようになる

評価基準 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法 出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点

受講生へのメッセージ 国際観光、インバウンドが急激に伸びているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅰ (国際観光Ⅱ) International TourismⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	前期の復習: 前期で学んだ英語表現を用いて、グループごとにロールプレイングを実施することができる。
2回目	日本をプレゼン①: 外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
3回目	日本をプレゼン②: 外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
4回目	日本をプレゼン③: 外国人観光客が日本に求めることを調べてまとめ、英語でプレゼンテーションをすることができる。
5回目	eメールでのやりとり: インバウンド観光客とのeメールのやり取りについて、基本的な英語フレーズを理解し使用することができる。
6回目	お土産を勧めよう①: 観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
7回目	お土産を勧めよう②: 観光客へ日本ならではのお土産を購入してもらうため、英語で適切に商品説明をすることができる。
8回目	雑談力アップのコツ: 旅行中の観光客との雑談をテーマにロールプレイングを実施することができる。
9回目	空港にて①: 空港で到着/出発する観光客を英語で案内することができる。
10回目	空港にて②: キャビンアテンダントやグランドスタッフが使用する英語を理解できる。
11回目	インバウンドツアープランニング①: 国内の観光地を一箇所選び、インバウンド観光客向けにツアーを企画することができる。
12回目	インバウンドツアープランニング②: 作成したツアーの広告、宣伝を英語で作成することができる。
13回目	インバウンドツアープランニング③: 作成したツアー内容を英語でプレゼンすることができる。
14回目	理解度確認テスト実施
15回目	1年間の振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点

受講生への メッセージ

国際観光、インバウンドが急成長している中、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらう事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅱ (旅程管理主任者Ⅰ) Tour Conductor License I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

株式会社オリエントツーリストに入社。カウンター販売・旅行企画・営業・添乗を経験。現在は株式会社TEIに派遣登録し、旅行会社各社にて添乗・受付・営業補佐など、旅行業界の色々な分野を担当する。専門学校や大学などで国家資格・旅行業務取扱管理者資格取得講座を担当

【授業の学習内容】

- ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。
- ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。
- ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身に付け正しく理解し業務に活かす。

【到達目標】

国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得

添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス	・添乗員(正式名称:国内旅程管理主任者)の役割と仕事内容を知る。 ・募集型企画旅行 通称:パッケージツアーでの添乗員の仕事を知る
2回目	受付	・バス添乗での受付・集合の流れを理解します。・乗務員との打ち合わせ時の留意点を確認します。 ・出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
3回目	出発あいさつ	・バス出発後の車内業務の流れを理解します。・ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。 ・出発の挨拶原稿を作成します。(出発挨拶の原稿なし実施を目指します。)
4回目	観光地案内	・観光地到着前の車内案内のポイントを確認します。 ・観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。(出発挨拶の原稿なし実施を目指します。)
5回目	誘導練習① (校外授業)	・徒歩誘導の練習に出かけます。 ・屋外誘導のポイントに留意し、実践する。
6回目	振り返り	・練習での成功点や改善点を確認します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
7回目	食事・立寄り	・食事・立寄り施設到着前の車内案内のポイントを確認します。 ・観光地での業務の流れと誘導方法を理解します。
8回目	復路	・解散場所到着前の車内業務の流れを理解します。 ・ツアーのリーダーとしての車内挨拶のポイントを確認します。
9回目	受付(JR編)	・バス添乗での受付との違いを理解します。・受付業務の留意点を確認します。 ・出発までの注意点やよくあるトラブルについて学びます。
10回目	誘導練習② (校外授業)	・新大阪駅での受付・誘導の練習に出かけます。 ・屋内受付・誘導のポイントに留意し、実践する。
11回目	振り返り	・練習での成功点や改善点を確認します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。
12回目	打合せ①	・今まで学んだ旅行中の業務を考えて打合せの重要性を確認します。 ・クーポン券とパウチャーの違いと使用方法を理解します。
13回目	打合せ②	・今まで学んだ旅行中の業務を考えて各種関係機関への確認連絡の重要性を確認します。 ・各種関係機関への確認連絡の方法を理解します。
14回目	期末テスト	・知識習得の確認をします。 ・筆記試験の実施
15回目	振り返り	・期末試験の答え合わせを行い、ご認識を正します。 ・バス研修などの実践に活かせるよう共有します。

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・第5回・10回目で行う校外学習での演習と終了レポート(20点×2回) +
不定期実施朝の挨拶(10点) +
14回目期末試験(50点) 以上の合計100点とし、40%計算を行う

受講生へのメッセージ
今や旅行は生活の中では外すことのできない行事です。
学生～職場～結婚～家族と立場や状況によって旅行タイプも様々で評価や求めるゴールも違います。
そんなお客様の様々な節目をお手伝いする旅行の仕事の先にはたくさんの笑顔が待っています。
お客様の旅を笑顔で終えるための様々なルールを正しく知り活用しましょう。
添乗員としてだけでなく、サービスに携わる業務に役立つことがたくさんあります。

【使用教科書・教材・参考書】

「旅程管理研修教本」 「添乗員のための旅行業法令と各種約款」

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光Ⅱ (旅程管理主任者Ⅱ) Tour Conductor License II	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限	後期

【担当教員・実務者経験】

株式会社オリエントツーリストに入社。カウンター販売・旅行企画・営業・添乗を経験。現在は株式会社TEIIに派遣登録し、旅行会社各社にて添乗・受付・営業補佐など、旅行業界の色々な分野を担当する。専門学校や大学などで国家資格・旅行業務取扱管理者資格取得講座を担当

【授業の学習内容】

- ・大まかな旅行業・添乗員の地位と役割を理解し、旅行業界用語と打合せの手順を習得する。
- ・実際のバスツアー参加やJRツアーの受付現場見学し、自分で添乗業務をしているイメージをつかむ。
- ・お客様に楽しんでいただくための各種案内・誘導方法を身につけ正しく理解し業務に活かす。

【到達目標】

国内旅程管理主任者(通称:ツアーコンダクター)として添乗業務内容の把握と必要知識の取得

添乗員に限らず、サービス業に携わる者としてのリーダーシップ、現場力や即戦力を養います。

授業計画・内容

1回目	配車確認 集合知での業務に関して学びます。乗務員との打合せ時の留意点を確認します。
2回目	休憩地での業務 出発後の業務について学ぶマス。業務の流れや気を付けるべき点を確認し練習します。
3回目	観光地での業務① 旅程管理に関するポイントを学びます。観光地でのお客様への案内事項を練習します。
4回目	観光地での業務② 旅程管理に関するポイントを学びます。観光地でのお客様への案内事項を練習します。
5回目	確認電話 利用機関への確認電話をロールプレイングします。自信をもって電話をかけられるよう、確認事項をまとめます。
6回目	確認電話(出発前作業) 利用機関へ実施に電話をし、手配内容の確認を行います。配布物やバス座席表などの準備をします。
7回目	
8回目	終日バス研修
9回目	
10回目	バス研修を終えて、学んだことが行かせたかどうか、改善点はないか振り返りを行うことができる。
11回目	課題 添乗員に必要な旅行地理 日本国内の業務する可能性の高い観光地を確認し、調べ、課題として提出することができる。(旅程管理試験の出題範囲)
12回目	
13回目	資格認定のための「旅程管理研修」 「業法・約款」「国内実務」2科目(修了テストあり)
14回目	
15回目	振り返り

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・第5回・10回目で行う校外学習での演習と終了レポート(20点×2回) +
不定期実施朝の挨拶(10点) +
14回目期末試験(50点) 以上の合計100点とし、40%計算を行う

受講生へのメッセージ
今や旅行は生活の中では外すことのできない行事です。
学生～職場～結婚～家族と立場や状況によって旅行タイプも様々で評価や求めるゴールも違います。
そんなお客様の様々な節目をお手伝いする旅行の仕事の先にはたくさんの笑顔が待っています。
お客様の旅を笑顔で終えるための様々なルールを正しく知り活用しましょう。
添乗員としてだけでなく、サービスに携わる業務に役立つことがたくさんあります。

【使用教科書・教材・参考書】

「旅程管理研修教本」 「添乗員のための旅行業法令と各種約款」

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (ホテルビジネス実務検定Ⅰ) Hotelier Proficiency Test Ⅰ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	ホテル&リゾート科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>ホテルの実務知識の体系的理解度を測定するための評価基準となる検定試験対策の講義。 ホテルビジネス基礎編のテキストを使用して、ホテルの基礎、宿泊部門の業務、料飲部門の業務、宴会部門の業務、調理部門の業務を学ぶ。 また、適宜小テストを行ない、講義内容の理解度を図る。</p>							
【到達目標】							
<p>ホテルビジネス実務検定試験(H検)での、ベーシックレベル2級合格を目指す。</p>							

授業計画・内容	
1回目	ホテルの基礎1:世界の観光産業について説明できる
2回目	ホテルの基礎2:日本の観光産業について説明できる
3回目	ホテルの基礎3:ホテルの形態と組織について説明できる
4回目	ホテルの基礎4:サービスの基本と国際儀礼について説明できる
5回目	ホテルの基礎5:ホテルと旅行業の関連法規・概要について説明できる
6回目	ホテル英語1:基本会話表現を話すことができる
7回目	ホテル英語2:セクション会話表現を話すことができる
8回目	宿泊部門業務1:宿泊商品の特性や、組織と業務役割を説明できる
9回目	宿泊部門業務2:宿泊約款と利用規則について説明できる
10回目	宿泊部門業務3:ホテル施設や設備を説明できる
11回目	宿泊部門業務4:ユニフォーム・サービス、フロント・オフィスの業務を説明できる
12回目	宿泊部門業務5:アシスタントマネージャー、コンシェルジュ、テレフォンオペレーター、ハウスキーピングの業務を説明できる
13回目	前期内容の振り返りと、確認テスト・解説
14回目	前期授業内容での期末テスト
15回目	前期期末テストの解説
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ホテルビジネス実務検定試験に即した筆記試験の点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
使用教本: ホテルビジネス ベーシックレベルテキスト 基礎編 *財団法人日本ホテル教育センター認定 ホテルビジネス -基礎編- 練習問題集700選	

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (ホテルビジネス実務検定Ⅱ) Hotelier Proficiency Test Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科名	ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
【担当教員 実務者経験】							
高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。							
【授業の学習内容】							
ホテルの実務知識の体系的理解度を測定するための評価基準となる検定試験対策の講義。 ホテルビジネス基礎編のテキストを使用して、ホテルの基礎、宿泊部門の業務、料飲部門の業務、宴会部門の業務、調理部門の業務を学ぶ。 また、適宜小テストを行ない、講義内容の理解度を図る。							
【到達目標】							
ホテルビジネス実務検定試験(H検)での、ベーシックレベル2級合格を目指す。							

授業計画・内容	
1回目	料飲商品の特性、組織と業務役割/ 基本知識:業種・業態の知識 施設・設備・備品の知識を身に付けることができる。
2回目	食材・飲材の基礎知識を学ぶことができる。
3回目	メニューの基礎知識を理解することができる。
4回目	サービス方法、食品衛生の知識、苦情処理と緊急対応を学ぶことができる。
5回目	主な担当者の業務を理解することができる。
6回目	宴会商品の特性、組織と業務役割/ 基本知識:宴会の種類、施設・設備・備品の知識を学ぶことができる。
7回目	サービス方法、冠婚葬祭の基本知識、プロトコルを理解することができる。
8回目	基本知識:宴会約款/ 主な担当者の業務を理解することができる。
9回目	調理部門の特性、組織と業務役割/ 基本知識:調理の種類と特徴を理解することができる。
10回目	施設・設備・備品の知識、調理の方法、西洋料理の基本知識(基本ソース・基本スープ)を理解することができる。
11回目	西洋料理の基本(魚介料理・肉料理・鳥(家禽)料理・野鳥獣料理)を理解することができる。
12回目	西洋料理の基本(サラダ料理・フロマージュ・甘味料理・パン・コーヒー紅茶)を学ぶことができる。
13回目	基本知識:顧客志向、食品衛生の知識/ 西洋料理の主な担当者の業務を理解することができる。
14回目	後期授業内容での期末テストを行い、検定合格にむけて苦手分野を確認することができる。
15回目	後期期末テストの解説と答え合わせを行い、検定にむけて復習することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ホテルビジネス実務検定試験に即した筆記試験の点数」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
使用教本: ホテルビジネス ベーシックレベルテキスト 基礎編 *財団法人日本ホテル教育センター認定 ホテルビジネス -基礎編- 練習問題集700選	

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅱ (サービス介助士) Care-Fitter	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総授業数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

公益財団法人 日本ケアフィット共育機構にてサービス介助士資格インストラクターとして、運輸業界・宿泊業界・流通業界等多くの業界専用講座や一般講座を担当。

【授業の学習内容】

お客様の立場に立って考え、行動するための「ホスピタリティ・マインド」の気づきと「ノーマライゼーション」の考え方を理解する。
お客様に安全で安心できる「介助」を提供できるよう、介助の知識を身につける。

【到達目標】

7/18-19(土日)心斎橋での実技教習(2日間 9:30~17:00)に出席・受講し、サービス介助士資格の取得を目指す。

授業計画・内容

1回目	ガイダンス・サービス介助士とは
2回目	超高齢社会である日本の現状を知り、サービス介助士の必要性を考える。事前課題についての説明。
3回目	ホスピタリティ・ノーマライゼーション
4回目	ホスピタリティマインドを理解する。ノーマライゼーションを知り、必要性を理解する。
5回目	高齢者の理解と介助・ジェロントロジー
6回目	高齢者の身体的特徴などの理解を深め、機能低下に対する介助方法を知る。ジェロントロジーの考え方を理解する。
7回目	障がい者への理解と介助①
8回目	車いす使用者の概要と介助方法について理解する。聴覚障がい者の概要の理解と不便さを知り、コミュニケーション方法を学ぶ。
9回目	障がい者への理解と介助②
10回目	視覚障害の概要を理解し、不便さを知るとともに安全な誘導方法について学ぶ。その他の障害について学ぶ。
11回目	障がい者の自立支援 実技教習について
12回目	身体障害者補助犬法の理解とユニバーサルデザインについて知る。事前課題の復習と実技教習についての案内。
13回目	
14回目	公益財団法人日本ケアフィット共育機構大阪事務所(心斎橋)での実技教習を受講して、資格取得する。
15回目	

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点~70点をB、69点~60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・提出物(事前課題)及び準備物(受講票) 50%
・資格取得 50%

受講生への メッセージ

多くの業界で導入されているサービス介助士の学びを身につけ、どんなお客様にも対応ができる人材になりましょう。
仕事において大切な学びであることはもちろんですが、日常生活においても役に立つ学びです。

【使用教科書・教材・参考書】

サービス介助士 教材一式

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅱ (サービス接客Ⅰ) Hospitality Proficiency Ⅰ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	総授業数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

株式会社大丸に入社。人事部採用係とサービス企画推進部に所属しサービスの向上と人材教育に携わる。現在はフリーランスで研修講師として企業で新入社員研修、ビジネスマナー研修、接客研修などを実施。学校では授業(接客、ビジネスマナー、キャリア)、就職活動対策講座、資格対策講座を担当する。

【授業の学習内容】

この授業は社会人として必要なサービス接客の実践的な知識を身につけ、即戦力として求められる人材になること目指します。「サービスとは何か」「接客とは何か」の理解を深め、ビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。また相手への「思いやりの心」を伝えるという接客の技法を具体的に身につけて学びます。

【到達目標】

知識だけでなく体現することを目指す。接客を通して良好なコミュニケーションを取ることができる、状況に応じて好印象を与えることができるようになる。サービス接客検定2級資格取得をする。

授業計画・内容

1回目	(ガイダンス)授業の進め方、受け方と評価について説明する。サービス接客検定の概要について確認する。人前で話すことを意識し自己紹介をする。
2回目	(サービススタッフの資質(1))明るさと誠実さとは何か。適切な判断と表現、身だしなみの重要性を理解できるようになる。身だしなみは次回以降整える。
3回目	(サービススタッフの資質(2))良識を持った素直な態度、協調性のある行動、清潔感についての理解を学び普段の行動に活かすことができる。
4回目	(ミニ筆記試験1回目)サービススタッフの資質の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
5回目	(専門知識(1))サービスの意義と機能、種類を学ぶ。グループワークを実施し内容を深めることができる。
6回目	(専門知識(2))流通の仕組み、商業と経済の用語を学び、グループワークを実施し用語確認する。
7回目	(ミニ筆記試験2回目)専門知識の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
8回目	(ミニ筆記試験3回目)一般知識を学習後、ミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
9回目	(対人技能(1))人間関係の重要性、顧客心理の理解、訪問のマナー、席次を学び日常生活に活かすことができる。
10回目	(対人技能(2))敬語、接客用語を学ぶ。知識のみだけではなく敬語を話せるように実技を取り入れ、接客時に活用することができるようになる。
11回目	(ミニ筆記試験4回目)対人技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
12回目	(実務技能(1))苦情対応の基本、掲示文の書き方の基本を学ぶ、ビジネス文書の用語に慣れ、日常でも使うことができるようになる。
13回目	(実務技能(2))慶弔を学び、水引、上書きの種類と書き方を学び実技を取り入れる。
14回目	(ミニ筆記試験5回目)実務技能の範囲からミニ筆記試験を実施する。解答解説し間違い箇所を確認する。
15回目	(授業総括)前期を振り返り総復習する。感じ良く他者に伝えることを意識しながら発表し自己成長を確認することができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・ミニ筆記試験5回実施し、実技評価とする。

受講生への メッセージ

思いやりの心や気持ちをもっていても伝えないと分からないものです。「伝えたい」から「伝える」ことを学び、社会に出る時に自分の強みになるよう身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

「らくらく合格！ サービス接客検定2級+準1級 集中レッスン&問題集」 著者：川村みどり 発行所：(株)ナツメ社

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリング I) Casino Dealing I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員・実務者経歴】

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。
 日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性
 ・カジノの本質とレスポンシブルゲーミング
 ・世界のカジノの歴史と文化
 ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)
 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
 ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	IR講義: オリエンテーション、海外IRの成功事例と有効性、世界のカジノの歴史と文化、近隣アジアのIR事例、日本IRの法制化と開発計画
2回目	IR講義: カジノの本質とレスポンシブルゲーミング、カジノディーラーの心得、カジノの組織体系とオペレーション、大阪IR・地元企業の取り組み
3回目	カジノマナー体験: ブラックジャック/ルーレットのテーブルマナーとゲームルールを学ぶことができる
4回目	カジノマナー体験: バカラ/ポーカーのテーブルマナーとゲームルールを学ぶ
5回目	カジノディーリング実技: 基礎(カードシャッフル、マルチデックシャッフル/チップワーク、ドロップカット、サイジング)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: 基礎(キャッシュチェンジ、カラーチェンジ/クロージングテーブル)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(基礎)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: ブラックジャック(総合)を習得できる
12回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
13回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(基礎)を習得できる
14回目	期末試験
15回目	映画鑑賞「バグジー」(1991年:150分)

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験: 実技試験(30問) ・後期試験: 筆記試験(いずれか1ゲーム)
------	---

受講生へのメッセージ	IR(統合型リゾート)は近い将来日本に誕生する新規産業であり、カジノディーラーは日本で初めて誕生する特殊技能職です。 IRの有効性とカジノの本質をしっかりと理解し、楽しくディーリングを学んでください。
------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)

授業シラバス

科目名 (英)	ディーリング (カジノディーリングⅡ) Casino Dealing Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	IR・ホテル&リゾート科	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経歴】

ラスベガス・ディーラーズスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了した後、シンガポール・マリーナベイサンズのカジノに勤務。
大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授。トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマネージャー講座の非常勤講師を歴任。
日本カジノスクール大阪校のマネージャーとして世界基準のカジノディーラー人材教育とスクール運営。(著書:「IRの有効性とカジノの本質」)
大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)

【授業の学習内容】

・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性 ・世界のカジノの歴史と文化 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画)
・カジノの本質とスポンシブルゲーミング ・カジノディーリング実技(基礎・ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー) ・カスタマーサービス

【到達目標】

世界で通用するカジノディーリング技術と知識の習得。日本のIRを正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つこと。

授業計画・内容

1回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
2回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(応用)を習得できる
3回目	カジノディーリング実技: ミディバカラ(総合)を習得できる
4回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
5回目	カジノディーリング実技: ルーレット(基礎)を習得できる
6回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
7回目	カジノディーリング実技: ルーレット(応用)を習得できる
8回目	カジノディーリング実技: ルーレット(総合)を習得できる
9回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(基礎)を習得できる
10回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(応用)を習得できる
11回目	カジノディーリング実技: テキサスホールデムポーカー(総合)を習得できる
12回目	カスタマーサービス: ブラックジャック/ルーレットを習得できる
13回目	カスタマーサービス: ミディバカラ/テキサスホールデムポーカーを習得できる
14回目	期末試験
15回目	映画鑑賞「ラスベガスをぶつつぶせ」(2008年:123分)

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験:実技試験(30問) ・後期試験:筆記試験(いずれか1ゲーム)
------	---

受講生へのメッセージ	
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】

講師が用意するハンドアウト資料、プレイングカード(1人に1デッキ配付)